

平成 23 年度 学 校 自 己 評 価 表（年度当初）

鳥取県立鳥取東高等学校

中長期目標 （学校ビジョン）	さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。	今年度の 重点目標	「しのめプロジェクト」の推進 1. 教科学習の充実と授業力向上 2. キャリア教育の充実 3. コミュニケーション能力の育成 4. 文武両道に根差した部活動の振興・充実 5. 「規律ある自由」の実践と健康・安全管理の充実
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果（ ）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 教科学習の充実と授業力向上	①自宅学習時間を増やすとともに、学習の質を高める。	○特に1・2年生の家庭学習が量的に要求水準に達しない傾向がある。 ○日常的に読書に親しんでいる生徒が少なく、学習における基盤に弱さもある。	○生徒が自己の効率的な学習習慣・学習方法を確立する。 ○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒が6割以上。 ○新書レベルの書物を継続して読める生徒の集団を作る。	○1・2年生に対し、予復習の課題を徹底指導(具体的且つ明確に周知)。 ○スタディサポートや自宅学習時間調査を活用し、生徒一人一人の学習実態をもとに有効な指導を行う。 ○意欲喚起につながる個人面談の実施。 ○朝読書を利用し、課題図書を用いた読書指導を行う。			
	②各教科ごとに学力実態を把握・分析した上で、学力向上プログラムを実践し、授業の質を高める。	○3年間の各時期において到達すべき学力、その育成プログラム、指導法等は各教科ごとに概ね共有されている。	○学力層に応じた適切な教科指導により学力向上が図られる。 ○授業に対する生徒の満足度が高まる。	○定期的な進路指導委員会で学力を分析し、それをもとに教科ごとの有効な指導プログラム・取組みを実践する。 ○授業アンケートをもとに授業の質的改善を図る。 ○県外教員との授業実践・研究交流を実施する。			
2 キャリア教育の充実	③自立した学習への取組みにつながる進路指導の充実。	○自立した学習への取組みが進路決定期までずれ込む生徒が少なくない。	○1年生⇒自分の適性を知り進路目標が持て、進路実現のために必要な学習内容・学習方法がわかる。 ○2年生⇒職業や大学等の具体的な進路目標が持て、大学（学部・学科）の教育内容や入試制度がわかる。 ○3年生⇒適性に応じた進路目標が設定でき、進路実現のための必要な学力がわかり、身につけている。	○生徒の進路意識を高めるための各種行事（「鳥取学」校外学習、進路講演会、進路LHR）の充実 ○文章表現を通じた（パラグラフ）「自己理解」のためのプログラム（1年生対象）の有効な活用。			
3 コミュニケーション能力の育成	④相手の意見を的確に理解し、自らの考えを説得力をもって伝える力の育成。	○言語技術教育の必要性が教員間に浸透し、研究がなされてきているが、教授法の習得には至っていない。	○言語技術教育を研究・実践するとともに、その成果を生かす場面を設ける。	○教員の言語技術教育力の向上 ・2名の教員を研修派遣 ・校内での自主研修会開催 ○言語技術教育の推進 ・1年国語科並びに総合学習において言語技術教育の取組み。			
	⑤積極的に他者と関わり、合意形成への協力やリーダーシップ発揮ができる生徒の育成。	○対人関係をうまく形成・維持しにくい生徒が少しずつ増えており、ストレスを適切に処理できない生徒もいる。 ○QUアンケート活用法やカウンセリングの力量向上のための取組みが不十分。	○学級活動や学校行事、部活動を含めた教育活動全体で、活躍する場を確保し対人関係能力を育成する。 ○校内職員研修会の開催。	○QUアンケートを活用し、担任と教育相談係の連携による教育相談活動の充実。 ○カウンセリング活動に対する力量を高めるための教職員校内研修の開催。 ○コミュニケーションLHRの実施。			
4 文武両道に根差した部活動の振興・充実	⑥学習と部活動の両立。	○学習と部活動をうまく両立させていると感じている部加入生徒(1・2年)が58%。	○学習と部活動をうまく両立させていると感じる生徒が7割以上。	○学級担任・教科担任と顧問の連携した指導の実践。			
5 「規律ある自由」の実践と健康・安全管理の充実	⑦開校以来の理念「規律ある自由」の実践。	○「規律ある自由」の理念の浸透が不十分。 ○身だしなみや、言動についてはさらにレベルアップが必要。	○身だしなみや言動について、全教職員一致した指導の展開。	○「規律ある自由」の理念の浸透を図る機会を意図的に設ける。 ○「清潔・端正」の徹底のため、全教職員一致した指導の展開。			
	⑧健康・安全に関する自己管理のできる生徒の育成。	○睡眠を中心とした体調自己管理が不十分で、保健室来室生徒が多い。 ○自転車乗車マナーについての指摘を受けることがある。登下校時の小さな自転車事故が数件ある。	○各家庭における生活習慣（起床時間、自宅学習開始時間、就寝時間等）の改善。 ○自転車マナー向上と登下校時の事故減少。	○PTAに「健康・生活部」を組織し、PTAと協力して取組む生活改善運動やあいさつ運動、校門指導の実施。			

評価基準 A：十分達成（100%） B：概ね達成（80%程度） C：変化の兆し（60%程度） D：まだ不十分（40%程度） E：目標・方策の見直し（30%以下）